

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

学校名 品川区立荏原第六中学校

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組【国語】

【１ 定着状況】

７年…目標値と比較し、基礎は 4.4 ポイント、活用は 1.4 ポイント、全体で 3.5 ポイント上回った。一方で、区の平均からは数値がやや下回っている。特に「書くこと」の領域では、区の平均から 5 ポイント下回っている。

８年…目標値と比較し、基礎は 2.4 ポイント、活用は同じで、全体は 1.6 ポイント上回った。区・全国の平均値を 5 ポイント以上上回ったものは「情報の扱い方に関する事項」「読むこと」であった。ポイントを下回ったものは「書くこと」及び記述の問題だった。

９年…目標値と比較し、基礎は 0.2 ポイント、活用は 2.9 ポイント、全体で 1.1 ポイント上回った。区・全国の平均値を 5 ポイント以上上回ったものは「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」であった。ポイントを下回ったものは「言葉の特徴や使い方にかかわる事項」「書くこと」及び記述の問題だった。

【２ 具体的な課題】

７年…活用力が弱い、「書くこと」の力が不足しており、全体的な向上が必要である。

８年…「書くこと」や記述に力の不足が見られ全体的な向上が必要である。

９年…活用や語彙、「書くこと」や記述に力の不足が見られる。

【３ 課題の原因】

７年…自分の考えを論理的に組み立てて書く力が定着していないことが課題として挙げられる。

８年…話を聞いて理解することが小学校から身に付いていない。基礎学力の定着が必要である。また書くことからくる表現力・語彙力、記述しまとめる読解力が課題として挙げられる。

９年…書くことからくる表現力・語彙力、記述しまとめる読解力が課題として挙げられる。

【４ 課題解決のための方策】

７年…書き方・文章の組み立て方の学習をし、自分でもできるように課題を設定して取り組ませる。

８年…７年から百人一首や古典の暗誦などに力を入れてきたが文法や漢字の部分が弱いので、反復練習し学力の定着を図る。

９年…授業の中で必要な情報をどのように掴むかを学ばせる。加えて、漢字や文法の反復練習や文章を書かせる学習を積極的に取り入れる。

【１ 定着状況】

７年…基礎は区・全国の平均値よりも低く、活用は区・全国の平均と近い数値である。

８年…基礎は区・全国の平均と近い数字であるが、活用が区の平均値よりも低い。

９年…基礎・活用ともに区・全国の平均値を下回ってる。

【２ 具体的な課題】

７年…歴史的分野の、各時代の文化の特徴に関する問題で正答率が低い傾向がある。

８年…地理では世界の諸地域における産業の特徴が、歴史では東アジアとの関係に関する理解が低い。

９年…学習してから時間が経っている地理や歴史の内容が知識として定着していない。

【３ 課題の原因】

７年…文化の特徴と時代の特徴との紐づけができていない。

８年…地形や気候と産業との関係が理解できていない。時代ごとに東アジアと日本がどのような関係をもっていたのかが整理できていない。

９年…基礎・基本の定着が不十分であり、学習内容が頭に残らない。

【４ 課題解決のための方策】

７年…なぜそのような文化が生まれたのかを、時代背景に触れながら考えさせる。

８年…産業の特徴を考えると、気候や地形との因果関係に触れながら考えさせる。歴史においては、既習事項からの変遷に着目しながら指導していく。

９年…地理・歴史・公民のつながりを意識した授業を展開し、反復して既習事項に触れる機会を増やす。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組【数学】

【１ 定着状況】

７年…区平均正答率と比べて、「基礎」は同程度、「活用」は 0.6 ポイント上回った。内容別正答率では、「データの活用」では 2.5 ポイント上回ったが、それ以外の内容はすべて区平均正答率より下回っている。

８年…区平均正答率と比べて「基礎」は 3.4 ポイント下回り、区平均正答率と比べて「活用」は 6.0 ポイント下回った。内容別正答率では「正の数・負の数」が区平均正答率と比べて 0.1 ポイント上回ったが、それ以外の内容はすべて区平均正答率より下回っている。

９年…区平均正答率と比べて、上回っている。内容別正答率で「データの活用」が区平均正答率を 0.4 ポイント下回ったが、それ以外の内容はすべて区平均正答率より上回っている。

【２ 具体的な課題】

７年…領域別では、変化と対応、データの活用では上回っているが、数と計算、図形では下回っている。基礎的な力が不足しているので、十分に演習を行う。

８年…全体的に各分野を底上げする。とくに「データの分布の傾向」の内容の正答率が大きく下回っているため重点的に補填していく。

９年…「データの活用」の正答率が下回っているので、意識して取り組ませていく。

【３ 課題の原因】

７年…数学的な見方をはたかせようとする傾向はあるが、基礎力が不足している。小数・分数や計算力が低く、基礎的な力が定着していない。

８年…数学の基礎である計算力が低い。また、相対度数や平均値、中央値、最頻値等の必要性や意味が理解できていない生徒が多い。

９年…解法として繰り返し使用する方程式などは定着するが、一単元のみで使用する用語などは慣れていないため、定着しない。

【４ 課題解決のための方策】

７年…表やグラフ、などのように表現を変えながら、式の構造を理解できるようにする。興味関心を引き出せるように、様々な難易度の問題にふれ、基礎力を底上げしていく。

８年…コンテストなどを行い、計算力を高めてく。また授業内や課題等で、相対度数や平均値、中央値、最頻値等の意味を確認しながら、問題を繰り返し解くことで理解を深められるようにする。

９年…箱ひげ図を他の単元の問題に取り入れたり、復習として小テストや定期テストで出題し、慣れることで知識として定着させる。

【1 定着状況】

7年…区、全国の平均値を10P以上下回ったものに「電気の利用」がある。

平均値を下回ったものに「動物のからだのつくりとはたらき」「生物とかんきょう」「月と太陽」「てこのはたらき」がある。

8年…区、全国の平均値を10P以上下回ったものに「植物の分類」「音の性質」「火山」がある。

5P以上下回ったものに「動物の分類」「水溶液の性質」「物質の状態変化」「地層」がある。

9年…区、全国の平均値を10P以上下回ったものに「電流の正体」がある。

5P以上下回ったものに「物質の成り立ち」「化学変化」「前線の通過と天気の変化」「電機分野全般」がある。

【2 具体的な課題】

7年…物質、エネルギー分野が区に比べて正答率が低いことが分かる。また、基礎の正答率が区の平均に比べ、5%低く、基礎の定着ができていないことも分かる。

8年…すべての分野において、区に比べて正答率が低いことが分かる。特に生命領域で、全国の正答率が6割を超える問題が、本校では5割以下である。7年生で学習した知識の定着度合いが極めて低い。

9年…地球分野を除き、区平均値より正答率が10%低く、基礎に注目しても、5%低い。7年生からの学習の積み上げができず、基礎の定着が喫緊の課題だとわかる。

【3 課題の原因】

7年…時間が空き、忘れてしまった知識が多いことが考えられる。また、物質、エネルギー分野の正答率の低さに関しては、計算問題への理解ができていないことが考えられる。

8年…理科に対する意欲不足からの勉強時間の不足が一つ理由として考えられる。また、7年生の生命領域の点数が低いことから、復習の機会の不足が考えられる。

9年…7年生の分野に関しては、時間が空いたことにより忘れてしまっていることが考えられる。8年生の分野に関しては、電気分野が低く、とくに計算分野が低い。そもそも学習内容を理解できていないことが考えられる。

【4 課題解決のための方策】

7年…小テストで、知識を定着させるための機会を作る。小学校の内容を一度復習してから単元の学習に入るようにする。

8年…理科用語の定着を目指し、理科用語を丁寧に説明し、その後で繰り返し書かせ定着を促すようにする。実験や生活に役立っていることを実感できる授業で、生徒の理科に対する興味・関心を引き出す。

9年…小テストの取り組みの継続による知識の定着。7, 8年生の学習内容を復習する機会を1単元の授業の中で一度は必ず作り、計算方法や重要単語を思い出させる機会を作る。

【１ 定着状況】

- ７年…目標値、全国平均正答率に対して校内平均正答率が大きく上回った。また、区平均正答率に対しても、同程度の結果だったことから、これまでの英語学習がきちんと定着していると言える。
- ８年…目標値、全国平均を上回った。特に、基礎の部分で平均よりも大きく上回る結果となり、授業でパターンプラクティスを繰り返し行っている結果がきちんと出たと考えられる。一方で、活用に関しては平均並みではあったが、今後授業内でも学んだことを応用して発展的な内容を取り入れていくことを意識したい。
- ９年…７年時から続けてきた回数の多い小テスト、ALT とのスピーキングテストに向けての取り組みの成果が出てきた。特に副教材でのリスニング授業はやっていないが、英語の歌や教科書内のリスニング問題をきちんとこなすことにより、区の平均も含め、全て本校が上回っている。基礎・活用ともに全国、区平均を上回り、領域別でも、全国・区平均の「聞くこと」ではそれぞれ 10.9、4.5 ポイント、「読むこと」では 12.3、4.4 ポイント、「書くこと」では 14.0、2.2 ポイント上回っている。これらから、良く定着していると言える。

【２ 具体的な課題】

- ７年…買い物の場面における対話を聞いて目的や場面、状況を推測する力が目標値、全国平均正答率に対して校内平均正答率を下回っている。また、１日の過ごし方について発表する場面において、自分が普段、ある曜日に行う日課を書く問題の校内平均正答率は目標値のより 3.7 上回ったが、全国平均正答率には届かなかった。この２点について課題がある。
- ８年…４技能問わず複雑英文を扱う問題は平均を下回り、特にライティングについて大きく課題が残った。
- ９年…場面に応じて書く英作文のみ目標値を 11 ポイント下回っているが、全国平均からは 4.7 ポイント上回っている。

【３ 課題の原因】

- ７年…聞くことに関しては、ただ単に情報を聞き取るだけでなく、目的や場面、状況を推測して聞くという力が足りない。また、書くことに関しては、曜日を書く際に分党は大文字にすることや play のあとに piano と書きたい場合は the を入れること、read のあとに book を書きたい場合は books にするなど、細かな部分でのミスが目立った。
- ８年…授業内ではリスニングやリーディングに重きを置いている部分があったと考えられる。これらのインプット練習に対して、スピーキングやライティングといったアプトプットの活動が少なかった。
- ９年…場面に応じて書かせる練習が、まだ足りない。

【４ 課題解決のための方策】

- ７年…目的や場面、状況を推測して聞くことに関しては、本文導入時などにオーラルイントロダクションなどをしながら、場面を推測して聞く練習を行っていく。また、書くことについては、恐れずに書くことも大切だが、このような完答を求められる問題においてはミスなく正確に書く力が必要なので、普段書く練習をする際にはどのような力を求めるかを生徒に明示して、正確に書く練習も取り入れていく。
- ８年…スパイラルを意識し、繰り返し既習事項に触れることを意識する。またライティングについては、授業内で書かせる時間を少しずつ増やし、苦手意識をなくしていく。
- ９年…基本的な文法事項をさらに学習させインプットした後、それを使って自己を表現できるようにする。